NO.11

石坂産業株式会社 埼玉県

「製造業」という誇りを胸に 地域の支持を得る産業廃棄物会社

おもてなし経営のポイント

- 高い志と技術力で、同業者より高単価でも着実に受注を得る
- 「目配り、気配り、心配り」は社員はもちろん得意先トラックドライバーにも
- 「語り部館」や「くぬぎの森」を手掛け、地域との連携や活性化に取り組む

1

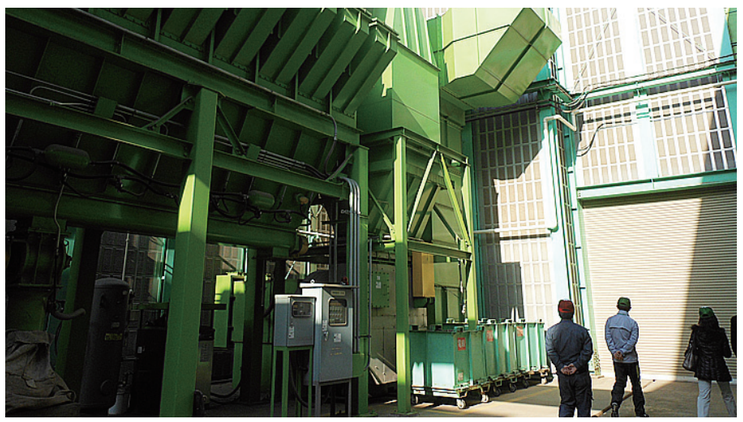
2

3

経営理念と企業文化

環境共生への挑戦。100年先、自然と一つになるために

石坂産業株式会社は、建設廃棄物処理業を営んで昨年45年周年を迎えた。環境方針やエネルギー方針など5つのISOを取得した高品質企業としても注目される。約半世紀の間、環境問題などの時代の変化に対応し、産業廃棄物の「縮減事業」から「資源化事業」へと業態転換を図った。同社に持ち込まれる廃棄物のうち、廃木材と廃コンクリートは100%リサイクルされ、資源として生まれ変わる。「製造業だと思っています」と社員は胸を張る。この実現のために同社は多額の設備投資をしたうえ、近隣住民に配慮するため全プラントを環境配慮型の屋内施設に設置。防音壁も完備した。また、ショベルなどの重機には、排出ガス、排出熱の少ない電動式を導入するなど、社員の労働環境整備にも力を入れている。屋内ですべての処理を行なうためには大型集塵機の設置も必要で、電動重機の導入も合わせると電気代などのコストが上がってしまい、通常の屋外処理を行なう同業者とは価格面で不利となる。しかし、同社は技術力と地域社会に考慮した屋内処理へのこだわり、また志が評価され、業績は好調である。



一つひとつのプラントは、専業工場として稼動。1987年に「優良再生事業者」として認定を受けた。廃棄物を多種多様なリサイクル原料として出荷している。

地域・社会との関わり

「子どもを働かせたい」と言われる会社を目指す

石坂産業は「地域と自然との共生」を経営理念に掲げ、総合エコ企業を目指している。そのために、社員一人ひとりがテクノロジーの習得習熟に努め、さらに、里地里山化のボランティアや日ごろの省エネ活動を通して、エコマインドを育んでいる。生物多様性保全活動では、同社の管理施設面積158,000㎡のうち、138,000㎡を森林パークとして造園管理し、憩いの場や環境学習として提供している。同社は、「環境を守ることは、昔の人々が築きあげた土地、暮らし、文化を知ることも含まれる」と考える。そこで、敷地に隣接した古民家を改築し、江戸から昭和初期の生活や仕事にまつわる道具を展示する「三富今昔語りべ館」を設立した。見学者は昔の人々の暮しを振り返るとともに、守るべき動植物は何かなど、次世代に伝承している。敷地には足湯も設けられ、憩いの場にもなっている。年間の見学者は近隣小学校を含めて約1,000人。来場者アンケートに書かれた「お褒めの言葉」は社員のモチベーション向上に、「叱咤激励」は業務改善につなげている。この活動を同社では経営品質向上の一環と位置づけ、年間来場者2,000人を目指している。地域住民や社員に「子どもを働かせたい」と言ってもらえるような会社となり、「当社を見学した子どもたちが将来、家を建て替えるとき『廃材は石坂産業に』と工務店に伝えてもらえたら」と取締役社長の畝本典子氏は語る。

また同社は、環境活動に熱心で造詣が深い人に「環境ナビゲーター」として働く場も提供している。このように、地域との深い関わりを大切にした活動で地域住民の支持を得ることも、同社の好業績の一因である。

社員の意欲・能力向上

品格は訓練で身につけることができる

同社では、社訓でもある「目配り、気配り、心配り」を徹底している。人間関係の基本は品格にあり、仕事をする能力で大切なのはコミュニケーションであると、畝本氏は言う。研修はあいさつから始まり、現場の朝礼では日替わりで社員が前に出てあいさつを行なう。訪問時の工場見学では、作業中のすべての社員が、ガラス越しに会釈をしてくれる姿が印象に残った。廃棄物を乗せたトラックが利用する広い駐車場でも「こんにちは」、「お疲れさまです」と横断を誘導する社員が声をかけてくれる。一人ひとりに「目配り、気配り、心配り」が浸透していると実感した。

この社訓は廃棄物を運搬してくるトラック運転手に対しても徹底されている。運転手とは品格を高め合う関係だと考え、あいさつを交わすのはもちろんのこと、身だしなみやアイドリングストップの徹底もお願いしている。また、廃棄物の処理を待つ運転手が快適に過ごせるようにと、彼らにお茶を出し、地元農家の農作物を使ったお弁当の販売もする。まさに心配りといえよう。

同社は、「私たちにできること、社会から未来へ」というフレームワークをベースとし、100年先が見える「環境共生企業」を社員と地域住民が一体となって目指していく。

写真【1】：2011年、電気駆動式油圧ショベルを用いた二酸化炭素排出削減事業を開始。屋内作業場での排ガスや排出熱の低減など職場環境の改善が可能となった。
写真【2】：「三富今昔語りべ館」は古民家をそのままに残し、江戸期から昭和初期の衣食住や、仕事にまつわるあれこれを、時代、様式別にわかりやすく展示。堆肥熱で湧かす資源循環による「足湯」もある。
写真【3】：受け入れや処理待ちの運転手に弁当を販売したり、待機中のトラックのアイドリングストップが可能となる待機場所を設けるなど、運搬業者への「目配り、気配り、心配り」も欠かさない。

会社概要

- 法人名：石坂産業株式会社
- 代表者：石坂 好男 代表取締役
- 所在地：埼玉県入間郡三芳町上富緑1589-2
- 設立年月：1967年7月創業、1971年9月設立
- 事業内容：建設廃棄物の資源化事業
- 社員数：正規70名
- ホームページ：http://ishizaka-group.co.jp/